

居心地の良しさを思いつくやろうと常に考えている。私達は2通りの動物を新しい飼育方法に引き渡す前に、その新しい飼育方法がどんなところかを慎重に調べることになっている。でもこの新しい設備は所詮、終わりのないものになる恐れがある。日本中に遺棄される動物がどのくらい多いかの数字は命令からないからだが、そこが私の活動の目的は単に動物を救済するだけでなくとて来らる。動物への接し方をより質の高いものにする。『啓蒙』をも含むことになる。

22で重要な二つの点を強調したい。

1. どんな動物を飼うにしても、まず最初にその動物を最低15年以上、責任をもって世話するかどうか——を考えてほしい。動物を飼おうとしていよう人、あるいは充分な場所を持つていふ事か？ 動物飼育に適切な時間はあるか？ その設備はあるか？ あるいは休む、外出するとき、また引越するとき、動物の面倒を誰が負うか？ 動物が病気